

# 南の風 388

南部地区ミニバスケットボール連盟  
会長 藤原 敬一

387号の続きです。クリティカルモーメントの場面です。

山内選手がこの試合初めて3Pシュート沈めて、62対60になった時点と書きました。続けて直後に山内選手は、パスカットからドライブでダブルクラッチシュートを決めます。62対62となります。このシュートがクリティカルモーメントになったと考える方もいると思います。

この当たりの流れを時系列で書きます。山内選手は3Pシュートを決めた後に、相手のボール運びの時にジャンピエール選手に後ろからファウルをしてしまいます。しかしこの相手のパスに対しても果敢にパスカットに行きボールを奪い、連続シュートにつなげました。普通ならファウルした直後に、再びパスカットに行くのはかなり勇気のいることです。

私は彼がこのゲーム初めての3Pシュートを入れたことで、彼自身が「さあ、いくぞ！」と思い、積極性がさらに増したのだと思いました。チーム全体に与えた影響も大きく、「よし！流れが来た！」という気運が一気に高まったように感じました。明成がゲームの流れを引き寄せ、オフェンスのリズムを掴むきっかけになったと思いました。

またあの山内選手の3Pシュートで、私には東山のオフェンスの動きが「ピタッ」と止まったように映りました。具体的には、西部選手のハイビックに行く動きが鈍くなったり、他の選手も米須選手のドリブルからのエントリーパスを、ただ立って待ったりする姿が戸惑いを感じているように見えたからです。

以上のようなゲームの流れから、クリティカルモーメントは62対60の時点だと思ったのです。

実際ゲーム中に、「ここがゲームの勝敗の分岐点（クリティカルモーメント）だ」と、断言できることは難しいと思います。勝敗の結果から振り返り、分析する中で気づくことが多いのです。

しかしいつもゲームの後に振り返っていたのでは、大事なゲームを制することはできません。

流れが悪くなりそうなチームのベンチは、クリティカルモーメントを瞬時に捉え、対処（タイムアウトや交代、指示など）することは、コーチのベンチワークとして最も大切な仕事です。

『クリティカルモーメント』を察知する上で大切なことは、点の取り方や取られ方、リバウンド、ターンオーバー、点差、相手のダメージ（特にメンタル）を考えた上でのゲームの流れ、自分のチームのムードなどです。

具体的な例を挙げて、クリティカルモーメント場面を考えて見たいと思います。

実際のゲームではないので難しいですが、ベンチワークにも触れながらできるだけ分かり易く進めたいと思います。 ※負けてしまったチームのクリティカルモーメントの場面を考えます。

## 《中学のゲームを想定します》

- ①4Qまで常に10点位リードしていて、追いつかれて逆転負けした。
- ②前半から終始接戦でゲームが進み、最後に競り負けた。
- ③ずっと負けていたのを逆転したが、再び逆転されて負けた。

この三つのシチュエーションで進めます。 続きは次号です。